



切り取ってご利用ください

日光の 伝統工芸

traditional crafts of nikko

⑤ 指物 (さしもの)



指物とは

指物は、釘や接着剤によって合わせものをするのではなく、木と木をしっかりと組み合わせさせて蓋や引き出しのある箱物類を作る伝統の技で、江戸中期に確立されたといわれています。その名が示すとおり、「ものさし」を使って正確な細工をすることから指物と呼ばれるようになりました。

技術的には、二枚以上の板を並べあわせて一枚の幅広の板を作る矧合(はぎあわせ)と板を直角に組む組接(くみぎぎ)・柱と柱を柵(はし)・(木材と木材をつなぎ合わせるため、他方の穴に差し込む突起物)で接合する柵組(はしぐみ)などの複雑な技法を駆使して作られます。製品には飾り棚や火鉢、小引出し、

茶ダンス、座卓など日用に使われる和家具があります。

指物の道具・材料

指物を制作するための道具は、カンナやノミ、ノコギリなどが代表的です。また、材料には堅くて狂いのない木材(主にケヤキやトチ、黒柿、日光杉、サクラなど)が用いられます。どの素材を使用した場合でも、材料の特性と木目の美しさを生かして制作されています。

指物のつくり・特徴

すべて木材を使用し、合板や釘などは一切使用しません。ノミや小刀などによって作られます。木は使い方で伸

縮の度合いが異なるため、指物師(指物の制作者)はこれを頭に入れて細工し、木目を十分に生かす木取り(大きな木材から用途に応じて、必要な部分の切り取る位置を決めたり切り取ったりすること)にも神経を凝らします。また、製品は平面の組み合わせであるため、理知的な美しさがあり、全体の形と用いられた木材の種類、木目のパランスも重要な要素となります。寸法の正確さはもちろん、水平・垂直の確かさは、製品の格を決定する重要なポイントです。したがって、指物師は尺度に頼るだけではなく、感覚による識別判断力をも身に付けることが大切です。

完成した製品からは見えませんが、外から見えないところほど技術を駆使して作り上げられるため非常に丈夫で、数十年使い続けることができます。

くわしくは
栃木県伝統工芸士
倭文雄一
和泉712-2

☎(53)5581



traditional crafts of nikko

一体感醸成事業

日光・美術の今昔(1) ～昭和ノスタルジー～

美術館以外の市の施設で所蔵する美術作品を中心に、今後4年間にわたり、年1回のペースで作品展を開催し、紹介していきます。第1弾となる今回は、「昭和ノスタルジー」と題して、1950年代から60年代にかけて日光地域と今市地域で活躍した作家たちの作品を展示します。

また、この展示に合わせて、杉並木公園ギャラリーでは、市で所蔵する院展に出品経験のある作家たちの日本画を一堂に展示する「日光市縁の画家たち-院展編」(2月21日～3月2日)を開催しますので、こちらもお覧ください。



おの さきさうじゅ
小野崎草樹「日食」1958(昭和33)年 日本画

開催期間: 2月7日(土)～3月29日(日)

開館時間: 午前9時30分～午後5時(入館は午後4時30分まで)

休館日: 毎週月曜日(祝日のときは翌日)

入館料: 一般…700(300)円、大学・高校生…500(200)円、小・中学生…無料

※()内は市民割引券を利用した際の料金です。



小杉放菴記念日光美術館

日光市の文化財

23

日光市指定文化財 代官所跡(足尾陣屋跡)



代官所跡説明板

種別 史跡
指定年月日 昭和51年3月15日
【旧足尾町指定】
所在地 日光市足尾町

足尾銅山は、慶長一五(一六一〇)年、幕府直轄の銅山となりました。この管理のために設けられたのが足尾代官所(陣屋)です。明治維新まで、四二人の代官が鉱山師を監督し、銅の生産に当たりました。代官所があった場所は、現在の足尾総合支所付近と推定されています。文政一〇(一八二八)年に焼失しましたが、その後再建された代官所の間取り図が、群馬県みどり市の銅問屋を勤めた家に残されています。それによると、表門を入ると奥に代官の住居を兼ねた役所建物があり、ここで銅山に関する庶政が執られていました。また、その左手前には、鉱石の精製を行う場所である吹所があることから、代官所が銅山の管理だけでなく、銅の生産の役割も担っていたことが分かります。代官所跡は、建物の痕跡などは残っていませんが、近世における足尾銅山経営の中心的役割を果たした史跡として重要なものです。

